

邪馬台国は別府温泉だった！

火山灰に封印された卑弥呼の王宮

酒井正士（著） 小学館新書 2020年8月4日発行 定価840円（税別）

魏志倭人伝に記載された「距離と方向」を最優先に邪馬台国の位置を推理しました。

定説では魏使が上陸した末盧国は佐賀県唐津市、「東南陸行五百里」の伊都国は福岡県糸島市とされていますが、「距離と方向」が魏志倭人伝と一致しません。私は末盧国を洞海湾沿岸、伊都国を福岡県築上町とすることにより、この問題を解決しました（洞海湾上陸説）。

不彌国に続く「投馬國 水行二十日」、「邪馬壹國 女王之所都 水行十日陸行一月」については、不彌国で道が分岐したと考え（不彌国分岐説）、帯方郡から投馬国までが「水行二十日」、邪馬台国までが「水行十日陸行一月」と解釈しています。

私が不彌国と考える中津市から日向街道を進むと、宇佐神宮、国東半島の付け根を經由して別府扇状地に到着し、私はここが卑弥呼の王宮の在った「邪馬台国」と考えています。

